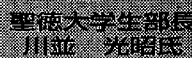
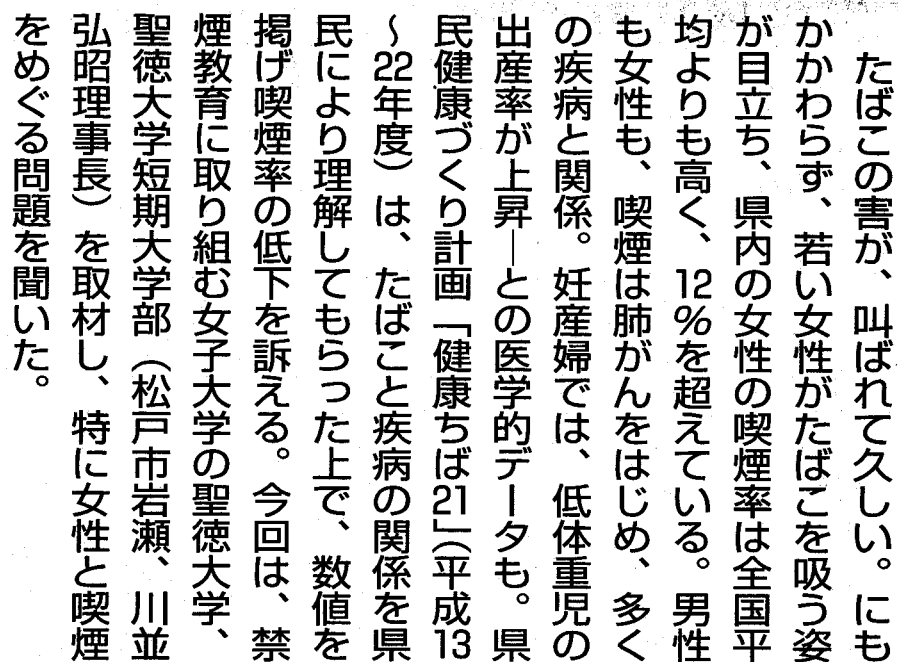


女性喫煙者にも警鐘



貫した禁煙

告がある以上、学校側の禁煙指導はもっともな措置だ。

同大の禁煙教育は徹底している。

「本学学生はどんな場でも禁煙です(学生生活に関する心得)。校則に禁煙を明瞭に規定した上で、たばこの書を理解してもらうために、入学式では保護者を含め全員にパンフレットを配布し、オリエンテーションではビデオを上映している。

さらに、約五年前、教養科目に講座「女性と健康」

県生活習慣状況調査によると、「喫煙でかかりやすくなる」と思う病気は、▽肺がん95・2%▽せんそく45・1%▽気管支炎62・1%▽心臓病38・8%▽脳卒中28・7%▽胃潰瘍20・5%▽妊婦への影響65・8%▽歯周病21・2%。肺がんだけが飛び抜けおり、たはこと疾病の関係で、県民の知識の片寄りが顕著。県はすべて100%とする知識の普及を図る。

いま、最も問題となつて
いるのが間接喫煙。たばこ
の煙には、約四千種類もの

片平 敬子氏

化学物質が含まれているが、喫煙者が吸う煙（主流煙）よりたばこの先から立ち上る煙（副流煙）の方が、有害物質の濃度が高いことが分かっている。夫が喫煙する家庭では、妻の肺がん死亡率は約一・五倍とのデータも。喫煙者は無意識に周りに迷惑をかけているので注意が必要だ。卒業生の意識調査も、「人のいるところで吸ってほしくない」と占め、迷惑は明らかに上を占め、迷惑は明らかに上を占め、迷惑は明らか

だと。ひと昔前と比べ禁煙は社会的に追い風。川並学生部長は「米国大学では二、三年前からキャンパス内は禁煙が常識です」と言い、片平教授は「これからは健康教育の時代」と断言。聖徳大は今後二年ぐらいをかけて、先生、職員を含めキャンパス内全面禁煙に移行していく方針だ。

だ。

ひと昔前と比べ禁煙は社会的に追い風。川並学生部長は「米国大学では二、三年前からキャンパス内は禁煙が常識です」と言い、片平教授は「これからは健康教育の時代」と断言。聖徳大は今後二年ぐらいをかけて、先生、職員を含めキャンパス内全面禁煙に移行していく方針だ。

聖徳大・短大

[illegible]

平均の男性47・3%、女性43・5%、全国

[illegible]

聖徳大のバンフレット

を新設。保健師の資格を持つ
つ同大保健センターの片平
敬子教授らが指導にあたっ

「健康ちば21」には県内

その効果は、学生の喫煙率の減少にはっきりと表れている。今年の卒業生の意識調査報告（回答千四百三十二人）によると、喫煙率は16・1％で、昨年の約19％と比べ3％も減少。また、

の喫煙率については、男性で35・1%以下、女性で9・7%以下の目標が掲げられた。このためにも、県は喫煙者の禁煙支援はもとより、普及啓発活動の強化によつて、新たな喫煙者を増やさない考えた。

有害性を熟知

指導が実っている。
千葉県の喫煙率（平成十

「肝心なのは、学生にたばこの有害性を理解させる

たばこ